

## 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果 (H28.11/9 ~ 11/22)

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの浮遊放射性物質の濃度(ミリベクレル/m<sup>3</sup>)を測定しました。 下段( )内は検出限界値。

測定地点			11/9 ~ 11/16	11/16 ~ 11/22
小高区	川房公会堂 (川房)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.016)
		Cs137	0.084 (0.014)	0.077 (0.017)
	金房小学校 (飯崎)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.022)
		Cs137	0.085 (0.012)	0.031 (0.021)
	塚原公会堂 (塚原)	Cs134	不検出 (0.012)	不検出 (0.018)
		Cs137	0.027 (0.012)	0.038 (0.013)
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	Cs134	不検出 (0.027)	不検出 (0.020)
		Cs137	0.044 (0.017)	0.051 (0.021)
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	Cs134	不検出 (0.011)	不検出 (0.015)
		Cs137	不検出 (0.013)	0.019 (0.011)

[お知らせ]平成28年4月から、試料の採取方法が7日間の連続吸引に変わりました。

測定地点			11/9 ~ 11/16	11/16 ~ 11/22
原町区	横川ダム (馬場)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.022)
		Cs137	0.058 (0.014)	0.053 (0.023)
	原町保健センター (小川町)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.018)
		Cs137	0.033 (0.012)	0.058 (0.015)
	高平生涯学習センター (下高平)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.017)
		Cs137	0.024 (0.014)	0.038 (0.014)
	市立総合病院 (高見町)	Cs134	不検出 (0.015)	不検出 (0.023)
		Cs137	0.072 (0.018)	0.064 (0.020)
	大原公会堂 (大原)	Cs134	不検出 (0.014)	不検出 (0.022)
		Cs137	0.052 (0.012)	0.080 (0.019)

検出限界値はおおむね0.02 ~ 0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、放射能濃度が検出限界値未満の場合、「不検出」と判定されます。

### 渡邊正己京都大学名誉教授 (市放射線健康対策委員会委員長)による解説

市内の大気浮遊じん放射能濃度は、セシウム137で平均0.049mBq/m<sup>3</sup>と引き続き極めて低い値でした。セシウム134は観測されませんでした。この値は、観測を始めた2年前の平均値注1の半分以下で、全国の大気浮遊じんの放射能濃度の変動範囲内注2に戻ったと考えられます。

こうした状況が続く限り、帰還困難区域外の日常生活で放射線の健康影響を心配する必要はありません。今後は、土壌、農・水産物、飲料水などの放射能汚染の状況とともに放射線リスクを総合的に判断するように心掛けましょう。

注1 観測当初(H26.11.1~20)の約3週間分データの平均値。

注2 環境省ホームページ情報(<http://www.env.go.jp/press/102261.html>) 全国で測定された大気浮遊じんに含まれる放射性核種の濃度は、人工放射性核種のセシウム134で不検出~1.2 mBq/m<sup>3</sup>、セシウム137で不検出~3.0 mBq/m<sup>3</sup>。